

輪島市門前浦上地区の仮設住宅等における生活環境改善の支援

指導教員 金沢工業大学 教授 宮下智裕
 福井工業大学 准教授 丸山晴之

参加学生 金沢工業大学
 大学院 松浦瑞歩 橋場那奈
 4年 小野光太
 福井工業大学
 4年 黒川真之介 角田眞央 大塚香凛 橋本晟 木戸夕日

謝辞

金沢工大宮下研究室、福井工大丸山研究室の活動にご協力くださいました輪島市浦上公民館の皆様、輪島市門前浦上地区の仮設住宅にお住いの皆様、サポートいただいた輪島市に心より感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。



石川県輪島市門前町浦上第一団地



目的

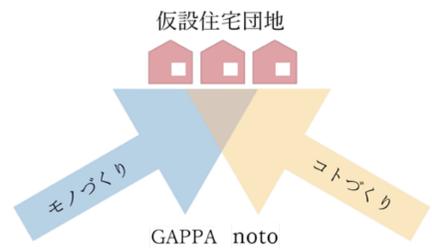
浦上公民館は、販売移動車や炊き出し、朝市、地域イベントなどが日常的に行われている。そうした場所だからこそ、住民同士が自然と集まり、会話が生まれるきっかけになるような「居場所」をつくりたいと考え、取り組みを行った。

活動概要

令和6年能登半島地震によって多くの方が仮設住宅に暮らしている。仮設住宅の生活では震災以前の生活に比べ生活空間の縮小や利便性の低下はもちろんのこと、地域コミュニティの希薄化など多くの問題を抱えている。

そのような状況を踏まえ金沢工業大学宮下智裕研究室と福井工業大学丸山晴之研究室が協働して輪島市門前浦上地区の仮設住宅やその居住者を対象に生活環境の改善の支援を行った。仮設住宅の住民とのヒアリングを通して、仮設住宅横にある浦上公民館のポーチに各種イベントや炊き出し等で使用出来るテーブルや椅子が欲しいという要望があったことがわかった。

そこで参加学生たちが検討し様々な使い方ができるテーブルやベンチ（畳ベンチ）及びイベントの告知などに使える立て看板をデザイン、製作した。製作の際には愛着を持ってもらうことを目的に住民にも一部作業に参加してもらった。また、テーブルや椅子のお披露目としてぜんざいなどを振る舞う交流イベント（えんがわCafé）を開催し住民間のコミュニティ支援も行った。



門前町での活動

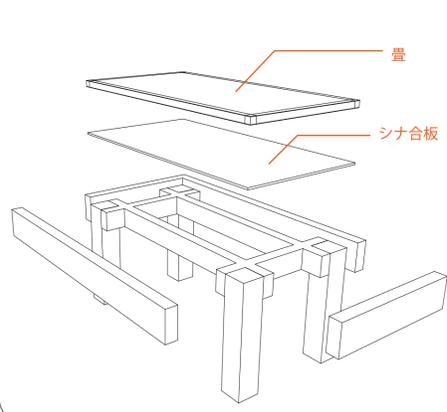
2025年11月1日 現地訪問・ヒアリング	2025年12月4日 チラシ配り	2025年12月22日 ぜんざいイベント実施	2026年1月26日 コーヒーイベント実施
--------------------------	---------------------	---------------------------	--------------------------

ワークショップ 地域の方との関わり合い

一緒にぜんざいづくり	ぜんざいを食べながらお話し
一緒にベンチ・立て看板制作	コーヒーでひと休み

畳ベンチ 気軽に一息付ける場所

浦上公民館には人が集まる機会が多いものの、気軽に立ち止まったり、少し腰を下ろしたりできる場所が限られていた。そこで、誰でも自然に座れて、会話や待ち時間のきっかけになるよう、畳のベンチを作成した。

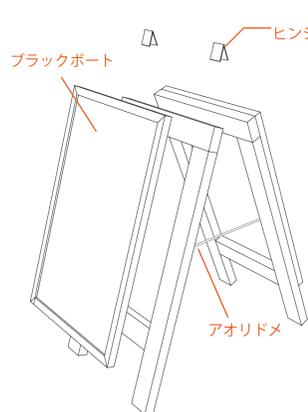


【使われ方】
上に畳マットを敷くことで腰掛けとして使えるほか、二つを重ねると、カウンターテーブルのように立ち話・炊き出しの際の台・棚としても使うことが出来る。



立て看板 ひと目でイベントを把握

浦上公民館では日々さまざまな活動が行われているが、外からは何が行われているのかわかりにくい状況であった。そこで、現在の活動をひと目で伝え、通りがかった人が気軽に立ち止まれるきっかけとして、立て看板を作成した。



【使われ方】
イベントの内容をチョークやマーカーで直接書き込めて、磁石でチラシを張り付けることも出来る。折りたたみ可能で、室内や室外のどちらのイベント時でもすぐに持ち運ぶことが出来る。



活動スケジュール

活動内容	形式	メンバー
7/8 顔合わせ・自己紹介	ZOOM	9名 (松浦・小野・橋場・黒田・角田・大塚・橋本・木戸・宮下先生)
7/27 顔合わせ・自己紹介	ZOOM	6名
9/15 グリーンカーテン設置の検討	ZOOM	3名
10/2 グリーンカーテンの時期を考慮し、代替案の検討	ZOOM	5名
11/1 輪島市門前町訪問	門前町	4名 (松浦・小野・橋場・宮下先生)
11/26 浦上公民館ヒアリング調査	ZOOM	6名
12/4 イベントチラシ配布	門前町	3名
12/15 ベンチ施工/ぜんざいスタディ	福井工大 金工大	8名
12/22 第一回イベント 冬の集い	門前町	9名 (松浦・小野・橋場・黒田・角田・大塚・橋本・木戸・丸山先生)
1/15 次回イベントにつながる案出しの検討	ZOOM	7名
1/20 ベンチ部材カット	ZOOM	3名
1/26 第二回イベント えんがわカフェ	門前町	4名 (松浦・小野・橋場・宮下先生)

地域の方の声

<p>畳ベンチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安心する ○安定感がある ○是非うちにもつくってほしい ○温かい 	<p>ぜんざい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○白玉がもちもちでおいしい ○体がホカホカする ○おかわりがほしい ○家族にも持って帰りたい 	<p>立て看板</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手書きだと温かみが出るよね ○分かりやすい ○かわいい ○ふと目につきやすい 	<p>ベンチ共同施工</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一緒に施工すると愛着がわいてくる ○自分も手伝いたい ○学生との作業は楽しい
--	---	--	--

1. 活動の要約

令和6年能登半島地震によって多くの方々が仮設住宅に暮らしている。仮設住宅の生活では震災以前の生活に比べ生活空間の縮小や利便性の低下はもちろんのこと、地域コミュニティの希薄化など多くの問題を抱えている。そのような状況を踏まえ金沢工業大学宮下智裕研究室と福井工業大学丸山晴之研究室が協働して輪島市門前浦上地区の仮設住宅やその居住者を対象に生活環境の改善の支援を行った。仮設住宅の住民とのヒアリングを通して、仮設住宅横にある浦上公民館のポーチに各種イベントや炊き出し等で使用出来るテーブルや椅子が欲しいという要望があることがわかった。そこで参加学生たちが検討し様々な使い方ができるテーブルやベンチ（畳ベンチ）及びイベントの告知などに使える立て看板をデザイン、製作した。製作の際には愛着を持ってもらうことを目的に住民にも一部作業に参加してもらった。また、テーブルや椅子のお披露目としてぜんざいなどを振る舞う交流イベント（えんがわCafé）を開催し住民間のコミュニティ支援も行った。

2. 活動の目的

令和6年能登半島地震を受け、応急仮設住宅団地の避難活者の環境改善支援をうため、任意団体GAPPA notoが設された。GAPPA notoは石川県、富山県、福井県の大学の建築系学科の学生・教員が連携し、輪島市・珠洲市・能登町・穴水町・七尾市の5市町9か所の仮設住宅団地を対象にグループごとに担当地域を決め、避難活者との交流を踏まえたものづくりとことづくりを通じた支援を実施している。その中で今回の実施主体は輪島市門前浦上の仮設住宅や在宅活者を対象に、浦上公民館を拠点として輪島市と連携して活動を進めており、活動内容の拡充を行っている。金沢工業大学宮下智裕研究室と福井工業大学丸山晴之研究室はGAPPA notoの1チームとして輪島市門前浦上地区で支援活動している。これまで2024年には浦上公民館を学生と共に訪れ、公民館長および住民代表とミーティングし生活改善に関するヒアリングを行ったり、学生7名教員2名で訪問しgappa cafeを開き、コーヒーやお茶、お菓子などを用意し住民へのヒアリングを行ったりしながら交流を深めた。

今年度はさらに具体的なものづくり、ことづくり活動を行った。これまでの活動を通じて、住民が感じる小さな不安や不便さに寄り添いながら支援活動を行なっていくことの大切さを感じている。また、単に物理的な支援だけではなく、その機会を通して日頃ストレスを感じやすい状況の中、少しでも楽しい時間としてものづくり・ことづくりの場に参加してもらうことが重要であると考え。そこで仮設住宅の住民へのヒアリングを通して得た要望に対して支援を行い環境改善の一助となることを目的としている。

3. 活動の内容

今年の活動として、6回のZOOMによるミーティング（金沢工大、福井工大）、2週間程度のベンチ製作作業、および2回の浦上公民館でのワークショップイベントの開催を行った。

○ 第一回WSイベント開催

畳ベンチの製作及び設置

2025年12月22日（月）、輪島市門前町・門前浦上地区団地にて浦上公民館ポーチに置くベンチ（畳ベンチ）を設置し、寒い時期でも地域の皆さんがほっと一息つける場をつくることを目的としたワークショップイベントを開催した。木材の加工など大体の部分を学生が金沢工業大学内で製作し、組み立てや色塗りの作業の一部を仮設住宅の住民の皆さんにも加わっていただき作業を行った。一部の作業を住民と学生が協働することで、（畳ベンチ）を知ってもらおうと共に愛着を持ってもらうことが目的であった。この畳ベンチの製作と設置には7名の住民の方が参加してくれた。

浦上公民館は、販売移動車や炊き出し、朝市、地域イベントなどが、日常的に行われている場所となっている。そうした場所だからこそ、畳を敷いたベンチに住民同士が自然と集まり、会話が生まれ

るきっかけになるような「居場所」をつくりたいと考え、今回の畳ベンチの製作を行った。設置したベンチは、公民館前の軒下で使うことはもちろん、必要に応じて公民館ホールへ運んで使用することもできるようになっている。これにより様々なイベントや本格的に復活する朝市にも使用されることを期待している。このワークショップイベントでは全部で4つの畳ベンチを製作した。



畳ベンチを住民と学生と一緒に製作する様子

えんがわカフェの開催

設置した畳ベンチを使って住民の皆さんと学生が語らう居場所を作るために、お披露目も兼ねてえんがわカフェを開き、温かいぜんざいを振る舞った。

ぜんざいは白玉をこねるところから準備を行い、地域の方々にもお手伝いいただきながら、会話を楽しみつつ進めた。訪れた住民が別の方々を呼んで再度訪れてくれたりすることで最終的には約80食を提供することができ、会話と笑い声の絶えないとても楽しい場所となった。



えんがわカフェで住民と学生と一緒に作ったぜんざいを振る舞う様子

○ 第二回WS イベント開催

畳ベンチの増設及び立て看板の製作、設置

2026年1月26日(月) 輪島市門前町・門前浦上地区団地にて前回のWSイベントで好評だった畳ベンチの増設を行うWSイベントを開催した。前回と同様に、作業の一部を住民に参加してもらい更に4台の畳ベンチを製作、設置した。畳ベンチは畳マットを敷くことで腰掛けとして使えるほか、重ねることでカウンターテーブルとしても利用できるつくりになっており、台数を増やすことで今後さまざまなイベントや場面に合わせて、形を変えながら活用してもらおうことを考えた。

また、これまでホワイトボードを使ってイベントの告知などを行っていたが、各種イベントやメッセージの発信に使える立て看板があったら嬉しいという住民の要望を受け、立て看板を作成した。第二回のWSイベントではこの立て看板を使ってえんがわカフェの発信を行った。

日付	活動内容	形式	メンバー
7月8日	顔合わせ・自己紹介	ZOOM	9名 (松浦・小野・橋場・黒田・角田・大塚・橋本・木戸・宮下先生)
7月27日	グリーンカーテン設置の検討	ZOOM	6名 (松浦・小野・橋場・黒田・角田・大塚)
9月15日	グリーンカーテンの時期を考慮し、代替え案の検討	ZOOM	3名 (松浦・橋場・宮下先生)
10月2日	輪島市門前町訪問 浦上公民館館長さんへの質問リストの作成	ZOOM	5名 (松浦・小野・橋場・黒田・角田)
11月1日	浦上公民館ヒアリング調査	門前町	4名 (松浦・小野・橋場・宮下先生)
11月26日	ヒアリングから得たことをもとに案出し 畳ベンチ案・ぜんざいイベントの検討	ZOOM	6名 (松浦・橋場・黒田・角田・大塚・木戸)
12月4日	イベントチラシ配布	門前町	3名 (松浦・小野・橋場)
11月11日～20日	・ベンチ施工 ・ぜんざいスタディ	金工大 福井工大	8名 (松浦・小野・橋場・黒田・角田・大塚・橋本・木戸)
12月22日	第一回イベント 冬の集い	門前町	9名 (松浦・小野・橋場・黒田・角田・大塚・橋本・木戸・丸山先生)
1月15日	前回イベントの振り返り 次回イベントにつながる案出しの検討	ZOOM	7名 (松浦・小野・橋場・黒田・大塚・橋本・木戸)
1/20-24	ベンチ部材カット	金工大	3名 (松浦・小野・橋場)
1月26日	第二回イベント えんがわカフェ	門前町	4名 (松浦・小野・橋場・宮下先生)

※グリーンカーテンの設置WSの中止

当初の計画では、ヒアリングで複数の住民から意見の出た夏の暑さを緩和する対策として、グリーンカーテンの設置を7月から8月に住民と学生で一緒に行うことを予定していたが、イベントの計画時期に参加学生の何人がコロナに感染してしまったため、感染拡大に配慮しイベントの開催を断念した。グリーンカーテンは時期が決まっているため、学生のミーティングによって畳ベンチの製作に活動を切り替えた。

4. 活動の成果

畳ベンチは多くの方々から「座りやすく安心する」「安定感があっていい」と非常に好評であった。一人が腰掛けると、次々に他の方が集まり、話しながら使ってくださる様子、自然と会話の輪が広がっていく様子を見て、住民のコミュニティーを支える一つになるものが作れたという実感を持った。「ぜひうちのところにも作ってほしい」といった声を多くいただき更に台数を増やしていく必要性も感じた。

また、ぜんざいは白玉をこねるところから準備を行い、地域の方々にもお手伝いいただきながら、会話を楽しみつつ作業進めた。最終的には90人近くの参加があり、ぜんざいも約80食を提供することができた。「白玉がもちもちでおいしい」「家族にも持って帰りたい」といった嬉しい声もいただき、大変好評であった。それと共に住民と学生と一緒に作業をすることで距離感が一気に縮まりとても有意義な機会になったと考える。また、参加した金沢工大、福井工大の学生に取ってもものづくりやことづくりを通して空間やコミュニティーを考えるととても貴重な学習機会となった。



畳ベンチでくつろぐ住民のみなさん

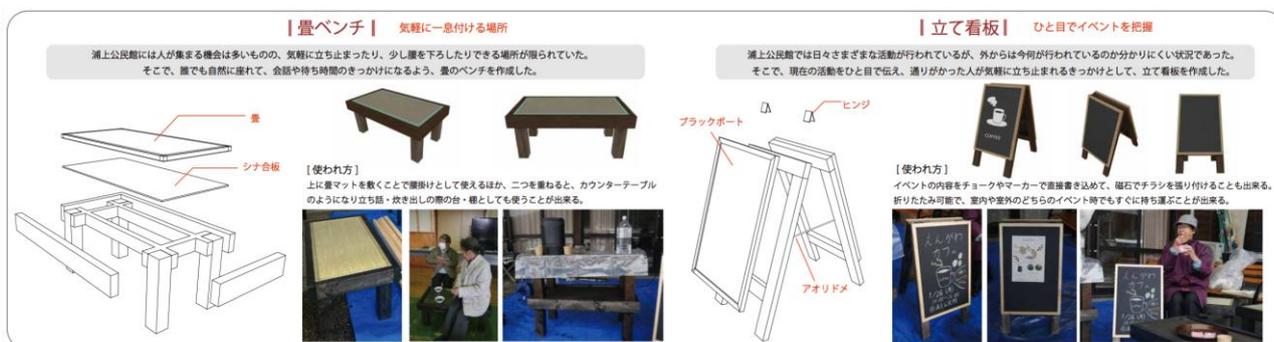
5. 今後の活動計画

今後は好評だった畳ベンチのさらなる増設と共に朝市の際に使用出来るテーブルや椅子などを製作することで、コミュニティーの核となる場をより豊かに演出できればと考えている。

6. 活動に対する地域からの評価

畳ベンチについて、お年寄りの方にとっては不安定なもの（ぐらつく、プラスチックなどの弱い素材）じゃなく、しっかりとしたものの方が安心することから、安定感があり立ち上がる時に安心と好評だった。また、畳を使ったことで温かい印象や座りやすさなども高評価であった。また、テーブルとしても使えることで使い勝手が良くいろいろなシーンで活躍しようという意見をいただいた。

看板に関しては、今までイベント一覧のホワイトボードでしか確認できなかったからその日のイベントが分かるのはありがたいという意見や、室内外どこでもつかえるところがいい、チョークやペンで書くことが出来るし磁石が使えるからチラシをはれるなどという評価をいただいた。さらには若者が来てくれるだけで嬉しいという言葉もいただいた。



畳ベンチと立て看板のデザイン



ワークショップイベントのチラシ